

社会科が考える学びの価値

奥谷 大樹 櫻井 弘平 宮本 めぐみ

1 社会科が考える学びの価値

社会を創るっておもしろい！

2 学びの価値の設定理由

(1) 教科の特性から

本校社会科部では、社会科における学びの価値を「社会を創るっておもしろい！」という一文として捉えた。その理由は以下の2点である。

一つ目は、学習指導要領に示される文言である。「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」では、「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを「社会科の究極のねらい」と示している。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」によると、「公民としての資質・能力」は、「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力」であると示されており、小・中学校社会科、地理歴史科、公民科の目標に一貫した表現となっている。つまり社会科は、よりよい社会を創る力を高めるための教科だと言える。

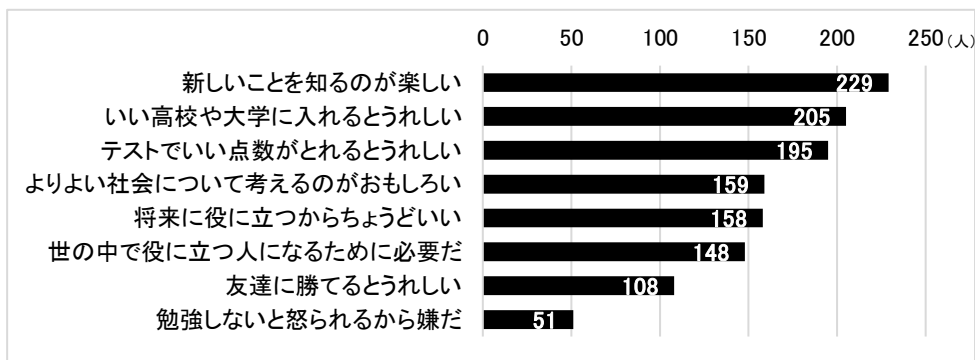
二つ目は、本校社会科部の研究の積み重ねである。本校社会科部では、社会科を、これまでの社会はどのように創られてきたのかを知り、考え、その上でこれからの社会をどのように創っていくべきかを考える教科と捉え、「豊かに社会を『想像』し、確かに社会を『創造』する生徒の育成」をテーマに研究を進めてきた。つまり、よりよい社会を創る力を高めるための研究を積み重ねてきたのである。

社会を創る力は、学習指導要領でも本校の研究でも重要とされてきた力である。社会を創る力を高めるためには、社会を創る学びの充実が肝要である。社会を創る学びを通して、自分たちの構想、議論や取組が、よりよい社会の形成につながっていく手ごたえを感じさせることで、社会の形成に対する好奇心や興味・関心、社会と関わる充実感や満足感を実感させていきたいと考えた。

(2) 生徒の実態から

本校生徒の実態を探るために、意識調査（令和5年5月実施 茨城大学教育学部附属中学校全校生徒対象 336名回答）を行った。右の図は、その設問の一部と回答の内訳を示すグラフである。「あなたに

図 あなたにとって、社会科を学ぶ価値はどのようなことですか。（複数回答可）



とって、社会科を学ぶ価値はどのようなことですか。」という設問に対して、最も多かった回答は「新しいことを知るの楽しい」であった。次いで多かった回答は「いい高校や大学に入れるとうれしい」「テストでいい点数がとれるとうれしい」というものである。この結果から、生徒は社会科を学ぶ価値について、知識が増えることや、テストの点数や進路においていい結果を出せることと捉えている生徒が多いことが分かる。「よりよい社会について考えるのがおもしろい」と答えた生徒の数は159名と4番目に多く、社会を創るおもしろさを実感している生徒もいることが分かる。本研究を通して、社会を創るおもしろさに気付くことができる生徒を増やしていきたい。

以上を踏まえ、本校社会科部では、「社会を創る」を「よりよい社会について考えたり、その実現に向けて行動したりすること」、「おもしろい」を「好奇心や興味・関心、充実感や満足感の高まり」とそれぞれ捉え、研究を進めていくことにした。

3 授業者が考える学びの価値を伝える工夫

(1) 先入観や価値観を揺さぶる発問や教材の工夫

本校の研究基調に示す「学びの価値」の基本的な考え方から、肯定的な感情の要因は、子供の経験、思いや考えと学びが結び付くことで生まれるものと捉えることができる。人間は様々な人・物・事に対して何らかの先入観をもっている。また、人間の価値観は育った環境、関わった人々、見聞きした情報や様々な体験等の生活経験から作り出されていく。社会科において、子供の経験、思いや考えとは、社会的事象に対する先入観や自分の価値観が大部分を占めると言えるだろう。

そこで、生徒がもつ先入観や価値観と社会科の学びを結び付けるために、生徒の先入観や価値観を揺さぶる発問や教材を工夫していく。例えば、単元や授業の導入で、生徒の予想とは異なるであろう資料を提示し、生徒の先入観や価値観を問い直す学習課題を設定する。また、ゲストティーチャーを招聘してインタビューをしたり、社会科見学等の体験的な活動を取り入れたりすることで、生徒の先入観や価値観を更新していくことができるようにする。

生徒の先入観や価値観を揺さぶる発問や教材を準備するためには、生徒がどのような先入観や価値観をもっているのか、教師が丁寧に見取っていく必要がある。また、生徒自身が自分のもつ先入観や価値観を認識することで、教師の発問や教材の工夫はより効果的に働くと考える。生徒の先入観や価値観の見取る場面と、生徒がそれらを自己認識する場面を設定することで、「社会を創る」学びのおもしろさに気付かせていく。

(2) 社会の創り方を考察したり構想したりする学習活動の充実

どのような場所でもどのような時代でも、そこに人間がいれば必ず社会が創られてきた。政治制度や経済体制、技術の差はあれど、人間は常によりよい社会を目指して生活してきたのである。地理・歴史・公民のどの分野においても、学ぶ対象となるのは、人間がよりよい状態を目指して創った社会である。

しかし、社会科の授業においては、社会的事象の特色を理解したり、その意義を考察したりする学習が多い。そのため、地理においては生徒自身が生活する場所を基準に、歴史においては生徒自身が生活する現代を基準に、社会的事象を捉える傾向がある。自分とは異なる地域に生きる人々や、自分とは異なる時代に生きる人々が、どのような思いや願いをもって、どのような工夫をして、社会を創ろうとしている（た）のか、という視点で社会的事象を考察することは多くないと考える。

そこで、地理や歴史においても、社会の創り方を考察したり構想したりする学習活動を一層充実させていく。例えば、単元の学習課題を「その場所に生きる人々やその時代に生きた人々の社会の創り方」を考察したり構想したりする内容を取り入れたものにし、単元の終末で様々な地域や時代に生きる人々の視点を盛り込んだ問いを投げかけたりしていく。生徒たちが社会的事象から見いだす特徴や特色は、別の視点から見ればよりよい社会を創るための工夫につながるものでもある。

また、様々な地域や時代に生きる人々の立場に立ったシミュレーションやロールプレイなどのアクティビティを取り入れていくことも、社会の創り方を多面的・多角的に考察したり構想したりする学習活動として有効だと考える。このように、「社会を創る」という視点から事象を考察させることで、社会の創り方についての好奇心や興味・関心を喚起していく。

(3) 思いや考えを深め合うコミュニケーション活動の設定

社会を創るためには、相互の思いや考えを伝え、受け止め、吟味し合う活動が不可欠である。また、各々が考えたよりよい社会の姿を共有し、理解し合うことは、社会の創り方についての好奇心や興味・関心を一層喚起していくと考えた。

そこで、授業の中で、思考ツールやタブレット端末を活用したコミュニケーションや、議論・討論を通して、よりよい社会の在り方を追究する場を設定していく。生徒はこれまでの授業において、ランキング、ベン図や座標軸などの思考ツールを授業で活用してきた。その際、タブレット端末を使うことで効率的に意見を共有したり、積極的に意見交換したりすることができた。また、議論・討論を通して自分の意見を形成したり、多面的・多角的に社会的事象を捉えたりしながら、新たな気付きを得たり考えを深めたりしていた。「社会を創る」学びにも、これらのコミュニケーション活動を取り入れていく。思考ツールの活用や議論・討論を通して、よりよい社会を考察・構想する場面を積極的に設定していくことで、「社会を創る」学びのおもしろさに気付かせていく。